

## のどけからまし

ここ数年、寒暖差や気候変動の影響で、春に咲く花の開花時期がまちまちになりがちで、どの花がいつ頃楽しめるのか本来の季節を見失っている方も多いと思います。梅、桃、桜は数か月かけて日本列島を北上しながら開花していくはずですが…。郷土のサクランボの花は、今年は例年になく早いと生産者の方が教えてくれました。

さて、皆様にもお馴染みの、この時期にふさわしく、教科書にも載っていた、著名な和歌二首があります。一つ目は、「東風(こち)吹かば にほひ(匂い) おこせよ梅の花 主(あるじ) なしとて春な忘れそ」です。平安時代の貴族で学問の神様といわれる菅原道真の歌です。九州の大宰府に左遷されたときに、邸(やしき)の梅の花に別れを惜しんで詠んだと伝えられています。「春の風が吹いたなら、香りを送っておくれ。梅の花たちよ、主の私がいなくなったからといって、春を忘れずに咲くのだよ。」ということのようです。そして二つ目は、「世の中にたえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」。意味は「もしも世の中にまったく桜がなかったなら、春を過ごす人の心はどれだけのどこでしょうね」本来春はのどかな季節なのに、人は桜が咲くのを待ち、散るのが気になり落ち着かない。桜があるために人々の心が穏やかでないことを述べて、人の心を騒ぎ立てる力のある桜の素晴らしさを伝えようとしている歌だといわれています。(古今和歌集に収録の在原業平の歌)



このように世界中がのどかであって欲しいこの時機にも、アメリカのトランプ大統領にあっては、世界の王様然とした言動で、全世界を混乱させているように見えてなりません。

先の4月29日でトランプ政権2.0は発足からちょうど100日目になりました。この間、署名した大統領令の数は111本と、選挙公約を一気に実現するかのようでしたが、アメリカ社会の分断や国家間の分裂をさらに深めているように見えます。大統領に就任してからの100日間、トランプ大統領の発言を詳細かつ冷静に観察すれば、その発言の大半は思い付や「小耳に挟んだ」ことを、そのまま口にするなど…、簡単に前言を翻している理由が分かれると国内外の識者は語り始めています。また、現在のホワイトハウスのスタッフを見回しても、大半はトランプ大統領に“忠誠心”を示す人物か、巨額の政治資金を提供した人たちともいわれます。(彼らは、大統領に政策提言するのではなく、大統領の心を斟酌して、それを政策に転化させようとする人たちであるとの指摘も見られます。)

まさに童話「裸の王様」のようなトランプ大統領は、国際協調も自由貿易も“脱ぎ”捨て、ディール(取引)に奔走する！忠誠を誓う取り巻きはトランプ政策を称賛し、王様はますます増長する。ウクライナ情勢もトランプ関税も、国際社会の非常識がまかり通ってしまうのでしょうか…。

※童話のクライマックスは少年の一言でしたが、先進7カ国(G7)も王様を説得する言葉を探せず、王様も耳を貸さない。しばらくは童話のように進まないでしょう…

